

○ 秩父地域鳥獣害対策協議会は、秩父地域 1市4町の関係機関で構成されている鳥獣被害防止のための広域組織である。鳥獣害対策に自ら取り組む地域に対する支援により、鳥獣害に強い地域づくりを目指している。

秩父地域の課題

○秩父地域は秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町の1市4町で県の西部に位置する中山間地域であり、サル、シカ、イノシシ、アライグマ、ハクビシン等による農作物被害が問題となっている。

○秩父地域の課題である、野生鳥獣による農作物被害防止対策を効果的に推進するため、平成21年に1市4町及び猟友会、県関係機関による広域連携組織「秩父地域鳥獣害対策協議会」を設立し、研修会や対策展示ほの設置、横の連携による情報の共有など、「守る、獲る、追い払う等」の総合的な鳥獣被害対策に取り組んでいる。



《秩父地域鳥獣害対策協議会総会》

主な対策

秩父地域鳥獣害対策協議会は主に「ちちぶ定住自立圏構想」からの負担金を活用し、農業現場における鳥獣害対策を中心として様々な事業を実施している。

○被害防止対策

- ・ 広域防護柵設置に向け、集落の合意形成と設置推進
- ・ カワウ被害防止対策



《地域住民による設置》

○有害鳥獣捕獲支援

- ・ 個体数調整に向けたくくり罠の配布

○野生獣の生息状況調査

- ・ GPS・テレメトリー発信機利用によるサル軍の追払い活動推進



○野生獣の捕獲実証

- ・ ICTを活用した罠による捕獲の実証



《シカの捕獲実証》



《イノシシの捕獲実証》

対策の効果

【平成29年度の活動実績】

事業名	内容
広域防護柵設置	シカやイノシシなどの大型獣を対象に2地区で広域防護柵を設置。地域住民が中心となって柵を設置した。
有害鳥獣捕獲支援	有害鳥獣駆除に従事する猟友会会員に個体数調整用くくり罠を配布した。
野生獣の生息状況調査	サルに装着した発信機データを積み上げることにより行動域の解析を行った。
野生獣の捕獲実証	ICTを活用した罠を設置し、スマートフォンを用いた遠隔操作でシカの捕獲を実証した

○協議会事業の実施により、獣害対策を地域で取り組む意識が醸成された。

○また、関係機関の連携と情報共有を図るため、研修会や先進地視察を実施し、対策に関する知識や指導力が向上した。

○協議会を設立した平成21年度の被害金額7,300万円から、地域での取り組みが進んだことから平成29年度は3,000万円にまで減少した。

秩父地域鳥獣害対策協議会の取り組み ー埼玉県秩父地域ー

獣害対策を人任せにしない地域づくりを目指す！！

野生鳥獣は行政区をまたいで行動する。隣接する市町の連携が重要！！

きっかけ

- ・鳥獣被害の拡大に伴う、営農意欲の低下
- ・秩父地域は山間部が多く、鳥獣害への対策は広域での連携が重要

Step1 (H21) 協議会の設立

- 秩父地域における鳥獣害対策について、関係機関が情報共有を図りながら広域的に取り組む課題を協議・調整し、活動計画を策定する協議会を設立
- 県関係機関、市町、農協、森林組合、漁協、猟友会等の23組織で構成

Step2 (H21~) 対策事業の検討

- 各機関の担当会で会議を開催。協議会事業について検討
- 検討した協議会の主な事業
 - ・有害鳥獣の被害状況と行動域の把握
 - ・地域の環境整備や被害防止対策などの普及啓発
 - ・地域の鳥獣害対策の意識醸成

Step3 (H22~) 獣害対策の実施

- サルテレメトリーシステムを活用したサルの追払いを開始
- 獣害対策実証ほの設置
- ジビエ活用検討(ジビエ活用分科会の設置)
- 罨などの個体調整用資材の整備

取組みの成果

- 協議会が設立されたことにより、秩父郡市の関係機関の情報共有の場が設けられた。
- 関係機関の連携により、共同して対策や調査研究を行う体制が構築された。
- 研修を重ねることにより、担当者の鳥獣害対策の正しい知識の習得が進み、郡市内の各地区において生産者への指導が可能になった。
- 協議会が地域の取組を後押しすることにより、平成21年度と比較して被害金額が半減した。

Step4 (H24~) 広域的な取組みの開始

- 獣害防止広域柵の設置
イノシシやシカなどの大型獣の侵入を防ぐため、広域柵の設置をモデル事業として実施
- 環境整備の実施
有害鳥獣の住処となる雑木等を伐採し、出没場所の整備を実施
- 啓発資料としてパンフレットを作成
- ジビエ衛生管理マニュアル作成
協議会として衛生マニュアルを策定。マニュアルに則り、食肉処理業者によるシカ肉の加工と流通が進んだ。



将来に向けて

- 秩父地域では電気柵の導入が進んでいる。しかし、現状では適切に管理されていない電気柵の設置も散見される。生産者が、導入した電気柵や防護柵を適切に管理できる指導体制を構築する必要がある。
- 引き続き協議会担当者や地域住民への鳥獣被害対策の正しい知識の習得と情報共有を図る。
- 今後はドローンやICTを活用した新技術の調査・研究についても検討する。

Step6 被害防止の進展

- 農業技術研究センターが開発した電気柵の「楽落くん」、防護柵の「電楽くん」の普及と広域防護柵の設置が進んだ。平成27年度から3か年で設置距離は約66kmを超えた。
- サルを対象とした集落ぐるみでの追い払い活動が実施されるようになった。
- 環境整備が進み、野生鳥獣が里へ侵入するのを防ぐ地域が増えてきた。

Step5 (H28~) 新たな技術などの導入

- GPSを活用したサル行動域の把握
- ICTを活用した罨いわなを利用した捕獲実証

鳥獣害対策に必要なデータの積み上げ

取組を経て...